

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2015年 第Ⅱ・四半期(4～6月) VOL. 77

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1．製造業の景気動向	5
2．非製造業の景気動向	9
3．今春の採用状況について	12
4．経営上の問題点・業界の動向など	15

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996 年 7 月に第 1 回目の景気動向調査を実施し、今回（2015 年 6 月実施）の調査で 77 回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員 5 人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業 620 社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）380 社の合計 1,000 社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収を FAX で行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が 30.8%、非製造業が 29.2%、全体では 30.2%である（表 1 ～ 2 参照）。

（注）2013 年 4 ～ 6 月期調査より調査方法の変更を行った。2014 年 1 ～ 3 月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来 1,300 社→1,000 社）。

表1. 業種別回答状況

業 種 名	発送数	回答数	回答率
金 属 製 品	163	54	33.1%
機 械 器 具	174	57	32.8%
そ の 他 の 製 造 業	283	80	28.3%
製造業計	620	191	30.8%
建 設 業	120	39	32.5%
卸 売 業	62	27	43.5%
小 売 業	58	13	22.4%
サ ー ビ ス 業	140	32	22.9%
非製造業計	380	111	29.2%
合 計	1,000	302	30.2%

表2. 規模別回答状況

規模別	製 造 業			非 製 造 業			全 体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	379	105	27.7%	269	70	26.0%	648	175	27.0%
20～49人	156	54	34.6%	58	24	41.4%	214	78	36.4%
50～99人	47	19	40.4%	18	8	44.4%	65	27	41.5%
100～299人	30	11	36.7%	14	2	14.3%	44	13	29.5%
300人以上	8	2	25.0%	21	7	33.3%	29	9	31.0%
合 計	620	191	30.8%	380	111	29.2%	1,000	302	30.2%

【調査結果の総括】

～景気回復の動きに一服感がみられる八尾～

八尾市の業況判断DI¹をみると、全産業で3と、前回調査（3月調査）から1ポイントの悪化（3月=4→6月=3）となった。業種別にみると、製造業は前回調査比4ポイントの悪化（3月=6→6月=2）となった一方、非製造業は同3ポイントの改善（3月=±0→6月=3）と、製造業の減速を非製造業の持ち直しが支えた形となった。製造業はその他の製造業がプラスに転じたものの金属製品が大きく悪化した。非製造業では、建設業が悪化したものの、小売業やサービス業で改善の動きが続いており、個人消費が持ち直していることがうかがえる（図1）。

図1. 業種別天気図(景気水準)

		前回		今回		天気図 前回比較
		2015年1～3月期		2015年4～6月期		
全産業			<4>		<3>	
製造業			<6>		<2>	
金属製品			<11>		<▲ 15>	
機械器具			<21>		<19>	
その他の製造業			<▲ 8>		<3>	
非製造業			<±0>		<3>	
建設業			<14>		<±0>	
卸売業			<▲ 14>		<▲ 10>	
小売業			<±0>		<9>	
サービス業			<▲ 6>		<15>	

(注) <>内は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ、0～9は薄日、▲10～▲11は曇り、▲20～▲21は小雨、▲21以下は雨とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、↗が好転、→が横ばい、↘が悪化を示す。

¹ DIは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目(「生産額」、「出荷額」など)は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

この間の日銀短観²（2015年6月調査）における全国および近畿の業況判断DI（全産業・全規模）の動向を確認すると、全国の業況判断DIは7となり前回調査（2015年3月）から横ばいの動きにとどまった（3月=7→6月=7）。近畿地区の業況判断DIは7となり、前回調査より1ポイントの改善（3月=6→6月=7）であった。近畿地区の景気持ち直しの動きが鈍いなか、八尾においても業況判断DIは3と、前回調査から1ポイント悪化した（3月=4→6月=3）。2014年第4四半期から2015年第1四半期にかけて相対的に強めの回復ぶりがみられたものの、足元で回復ペースが一服している（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

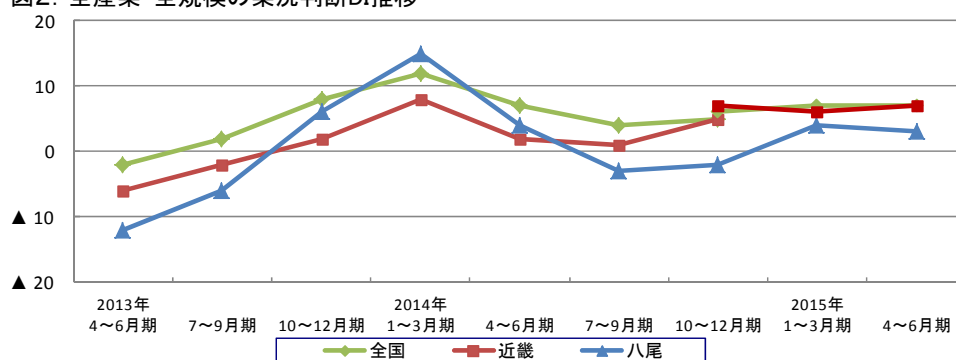


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

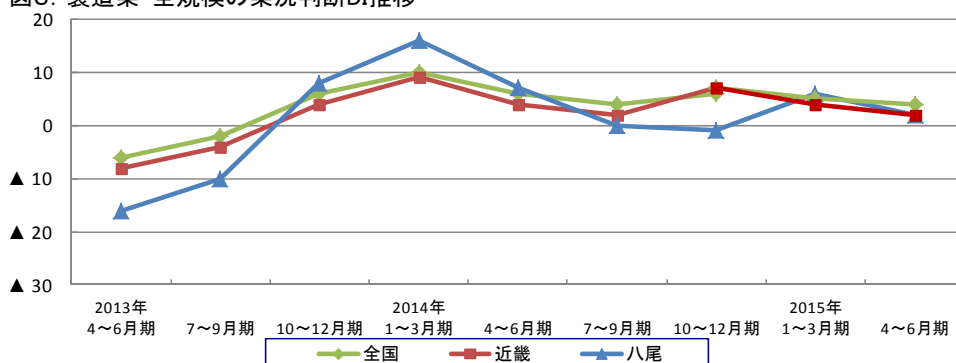
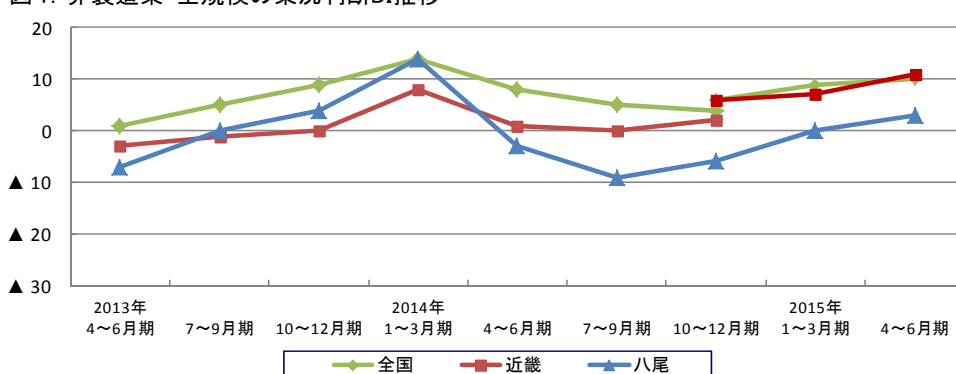


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

（注）短観は2015年3月調査より調査対象企業の見直しがあり、2014年10～12月調査で新・旧ベースを接続している為、乖離が生じている。

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のDI³で確認すると（図5～6）、製造業では「生産額」のマイナス幅が拡大し頭打ちの兆しがみられる。「設備投資額」も再びマイナスに転じ、一旦はみられた投資拡大の動きに急ブレーキがかかる格好となった。他方、非製造業は昨年末までの低調から脱する動きが続いている。「客数・販売先数」や「設備投資額」は目立った改善傾向はみられないが、「売上額」はマイナス幅が縮小した（図5～6）。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

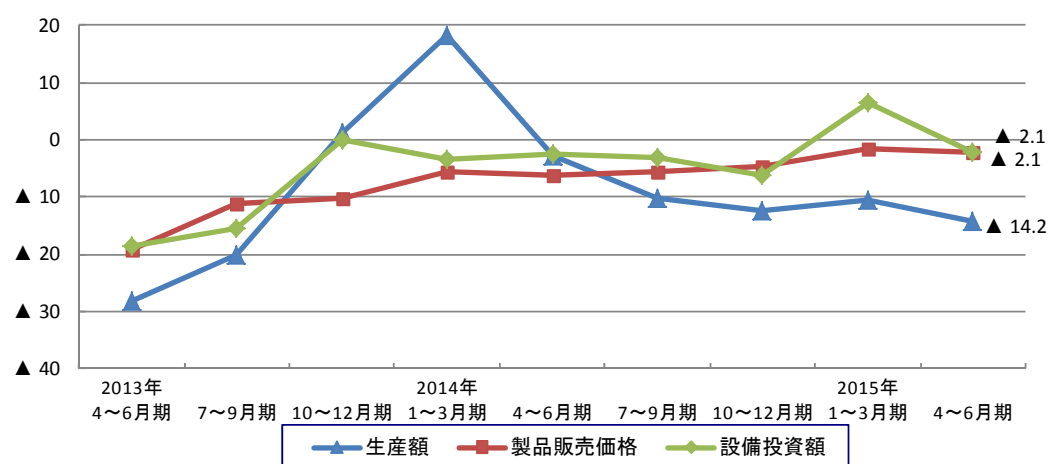
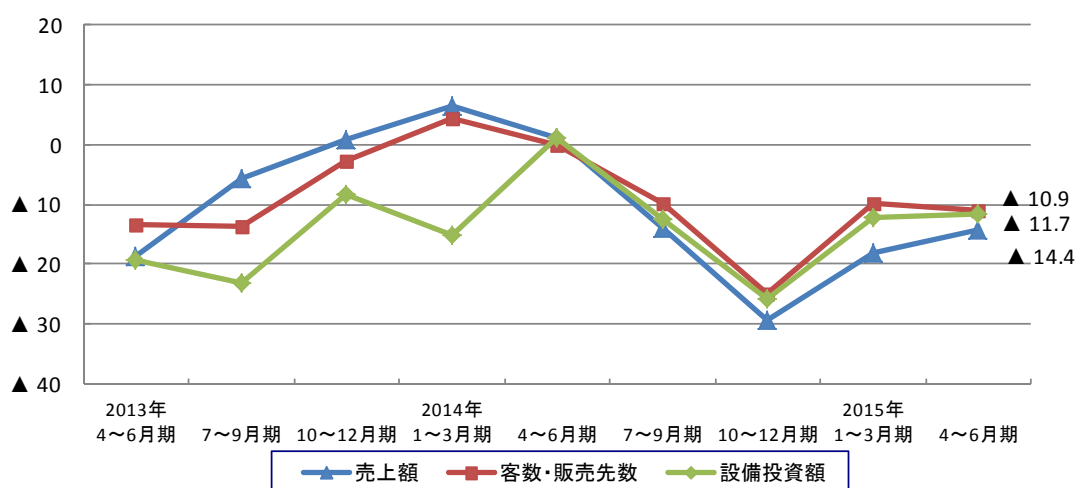


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



【生産額】

製造業の2015年4～6月期における生産額D I（前期比、「増加」-「減少」）は▲14.2と、前回調査より1.9ポイント悪化した（前々回▲7.6→前回▲12.3→今回▲14.2）。業種別には、すべての業種でマイナスとなり、金属製品や機械器具はマイナス幅が拡大した。

表3. 生産額(前期比)

業 種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	54	18.5	33.4	48.1	▲ 29.6	▲ 19.3
機 械 器 具	57	17.5	50.9	31.6	▲ 14.1	±0
その他の製造業	80	20.0	56.2	23.8	▲ 3.8	▲ 16.8
製造業計	191	18.8	48.2	33.0	▲ 14.2	▲ 12.3

前年同期と比べた生産額D Iは▲14.2と、マイナス（減少超）が続いた（前々回▲12.3→前回▲10.4→今回▲14.2）。業種別でみると、金属製品や機械器具はマイナス幅が拡大した。その他の製造業はプラスに転じた。

表4. 生産額(前年同期比)

業 種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	54	14.8	35.2	50.0	▲ 35.2	▲ 8.8
機 械 器 具	56	23.2	37.5	39.3	▲ 16.1	▲ 4.9
その他の製造業	79	24.1	53.1	22.8	1.3	▲ 15.7
製造業計	189	21.2	43.4	35.4	▲ 14.2	▲ 10.4

【出荷額】

4～6月期の出荷額D I（前期比、「増加」-「減少」）は▲17.9とマイナス（減少超）が続き、D Iは前回調査より2.7ポイント悪化した（前々回▲10.3→前回▲15.2→今回▲17.9）。業種別の内訳をみると、全ての業種がマイナスであり、金属製品と機械器具はマイナス幅が大きく拡大した。

表5. 出荷額

業 種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	53	18.9	30.2	50.9	▲ 32.0	▲ 15.8
機 械 器 具	57	15.8	45.6	38.6	▲ 22.8	▲ 7.9
その他の製造業	80	21.3	52.4	26.3	▲ 5.0	▲ 20.3
製造業計	190	18.9	44.3	36.8	▲ 17.9	▲ 15.2

【製品在庫】

4～6月期の製品在庫D I（前期比、「不足」-「過剰」）は▲15.3と、マイナス（過剰超）幅が拡大し、在庫過剰感が高まった（前々回▲8.9→前回▲10.3→今回▲15.3）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスが続き、なかでも金属製品はマイナス幅が拡大した。

表6. 製品在庫

業 種	当期の製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		不足	適正	過剰		
金 属 製 品	48	2.1	72.9	25.0	▲ 22.9	▲ 10.9
機 械 器 具	52	1.9	80.8	17.3	▲ 15.4	▲ 15.0
その他の製造業	77	3.9	81.8	14.3	▲ 10.4	▲ 6.3
製造業計	177	2.8	79.1	18.1	▲ 15.3	▲ 10.3

【原材料仕入価格】

4～6月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」-「値下」）は31.9と、プラス（値上超）で推移しており仕入コストは上昇傾向である。もっとも、2四半期続けてプラス幅が小幅になっている（前々回45.1→前回37.0→今回31.9）。業種別には、金属製品のプラス幅が大きく縮小した。

表7. 原材料仕入価格

業 種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	53	22.6	71.7	5.7	16.9	36.8
機 械 器 具	56	41.1	57.1	1.8	39.3	39.7
その他の製造業	79	44.3	48.1	7.6	36.7	35.3
製造業計	188	37.2	57.5	5.3	31.9	37.0

【製品販売価格】

4～6月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」-「値下」）は▲3.2と、マイナス（値下超）で推移している（前々回▲2.4→前回▲3.0→今回▲3.2）。金属製品と機械器具はマイナスが続いた。一方、その他の製造業はプラスが続き仕入価格上昇分を転嫁する動きがみられる。

表8. 製品販売価格(前期比)

業 種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	53	0.0	90.6	9.4	▲ 9.4	▲ 1.8
機 械 器 具	56	0.0	91.1	8.9	▲ 8.9	▲ 12.9
その他の製造業	79	8.9	87.3	3.8	5.1	3.5
製造業計	188	3.7	89.4	6.9	▲ 3.2	▲ 3.0

前年同期と比べた製品販売価格D Iは▲2.1と、マイナス（値下超）で推移した（前々回▲4.8→前回▲1.5→今回▲2.1）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業 種	当期の製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	54	3.7	81.5	14.8	▲ 11.1	1.7
機 械 器 具	56	1.8	87.5	10.7	▲ 8.9	▲ 12.9
その他の製造業	80	12.5	83.7	3.8	8.7	4.8
製造業計	190	6.8	84.3	8.9	▲ 2.1	▲ 1.5

【 採算状況 】

4～6月期の採算状況D I（前期比、「好転」-「悪化」）は▲19.2と、マイナス（悪化超）での推移が続いており（前々回▲29.2→前回▲22.0→今回▲19.2）採算性の改善が遅れている。業種別の内訳をみると、全ての業種でマイナスであった。

表10. 採算状況

業 種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	53	7.5	56.7	35.8	▲ 28.3	▲ 17.5
機 械 器 具	55	3.6	69.1	27.3	▲ 23.7	▲ 20.9
その他の製造業	80	10.0	70.0	20.0	▲ 10.0	▲ 25.5
製造業計	188	7.4	66.0	26.6	▲ 19.2	▲ 22.0

【 資金繰り 】

4～6月期の資金繰りD I（前期比、「好転」-「悪化」）は▲9.5とマイナス（悪化超）で推移しており、資金繰りの厳しさは残存している（前々回▲10.0→前回▲8.2→今回▲9.5）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスであった。

表11. 資金繰り

業 種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	54	5.6	72.2	22.2	▲ 16.6	▲ 8.8
機 械 器 具	57	3.5	86.0	10.5	▲ 7.0	▲ 4.8
その他の製造業	79	7.6	78.5	13.9	▲ 6.3	▲ 10.5
製造業計	190	5.8	78.9	15.3	▲ 9.5	▲ 8.2

【受注状況】

4～6月期の受注状況D I（前期比、「好転」-「悪化」）は▲16.8とマイナス（悪化超）が続く（前々回▲17.5→前回▲12.2→今回▲16.8）。受注状況の改善は遅れている。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであり、なかでも金属製品のマイナス幅が拡大した。

表12. 受注状況

業 種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	54	11.1	44.5	44.4	▲ 33.3	▲ 16.1
機 械 器 具	56	17.9	55.3	26.8	▲ 8.9	▲ 7.9
その他の製造業	80	17.5	53.7	28.8	▲ 11.3	▲ 12.7
製造業計	190	15.8	51.6	32.6	▲ 16.8	▲ 12.2

【設備投資額】

4～6月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」-「減少」）は▲2.1と、マイナス（減少超）に転じ（前々回▲6.3→前回6.4→今回▲2.1）。設備投資意欲は本年3月調査では一旦積極化した但、今回は再び慎重化した。業種別の内訳をみると、金属製品がマイナスに転じ、機械器具もプラス幅の縮小がみられた。

表13. 設備投資額

業 種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	54	11.1	66.7	22.2	▲ 11.1	5.3
機 械 器 具	54	18.5	64.8	16.7	1.8	14.5
その他の製造業	80	17.5	66.2	16.3	1.2	1.2
製造業計	188	16.0	65.9	18.1	▲ 2.1	6.4

【向こう3カ月の景況】

4～6月期における向こう3カ月の景況判断D I（「好転」-「悪化」）は▲8.0と、マイナス（悪化超）幅は前回調査より拡大した。先行きの景気判断は、前回調査では好転の兆しがみえたものの、今回は後退した結果となった（前々回▲21.8→前回▲0.5→今回▲8.0）。業種別の内訳をみると、金属製品はマイナス幅が拡大、機械器具も好転超の動きは頭打ち、その他の製造業はマイナスに転じた。

表14. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	53	11.3	64.2	24.5	▲ 13.2	▲ 7.1
機 械 器 具	56	25.0	50.0	25.0	±0	1.6
その他の製造業	80	15.0	60.0	25.0	▲ 10.0	2.4
製造業計	189	16.9	58.2	24.9	▲ 8.0	▲ 0.5

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



4～6月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額はマイナス（減少超）が続いた。資材仕入単価や労務費のDIは引き続きプラス（値上超）とコスト高騰の環境が続く一方、工事引合件数はマイナスが続いたうえ、受注単価もマイナスに転じており、採算状況はマイナス（悪化超）幅が前回調査よりさらに拡大している。このようななかで向こう3カ月の景況もマイナス（悪化超）に転じた。

前年同期比DIを見ると、売上額、受注状況、設備投資額ともに引き続きマイナス（減少超）であり、マイナス幅も大きく拡大した。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	39	17.9	53.9	28.2	▲ 10.3	▲ 2.9
	資材仕入価格	39	43.6	56.4	0.0	43.6	32.4
	労務費	39	33.3	66.7	0.0	33.3	23.5
	工事引合件数	38	23.7	44.7	31.6	▲ 7.9	▲ 8.8
	受注単価	38	5.3	84.2	10.5	▲ 5.2	6.1
	採算状況	39	0.0	53.8	46.2	▲ 46.2	▲ 29.4
	資金繰り	39	0.0	76.9	23.1	▲ 23.1	▲ 14.7
	受注状況	39	7.7	64.1	28.2	▲ 20.5	▲ 5.9
向こう3カ月の景況		39	15.4	66.7	17.9	▲ 2.5	12.1
前年同期比	売上額	39	17.9	38.5	43.6	▲ 25.7	▲ 5.7
	受注状況	38	10.5	52.7	36.8	▲ 26.3	▲ 12.1
	設備投資額	35	5.7	57.2	37.1	▲ 31.4	▲ 9.1

卸売業

景況天気図は

(前回)



曇り

(今回)



4～6月期を前期と比べると、売上額、販売先数・客数、客単価はマイナス（減少超）が続いており、業況改善の遅れが目立つ。もっとも商品在庫や採算状況のマイナス幅は縮小しており、明るい動きもあるのに加えて、販売価格のプラス幅が拡大し仕入価格上昇分の価格転嫁の進展がみられる。このようななかではあるが、向こう3カ月の景況は再びマイナス（悪化超）に転じた。

前年同期とのDIの比較でみた設備投資額はマイナス（減少超）で推移しているが、マイナス幅は大きく縮小した。売上額、販売先数・客数も同様に、依然マイナスであるものの、マイナス幅は縮んだ。

表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	27	11.1	25.9	63.0	▲ 51.9	▲ 30.8
	販売先数・客数	27	3.7	77.8	18.5	▲ 14.8	▲ 11.1
	客単価	27	7.4	63.0	29.6	▲ 22.2	▲ 27.0
	商品仕入価格	27	37.0	63.0	0.0	37.0	33.3
	商品在庫	27	3.7	85.2	11.1	▲ 7.4	▲ 14.8
	商品販売価格	27	22.2	66.7	11.1	11.1	7.4
	採算状況	27	7.4	66.7	25.9	▲ 18.5	▲ 23.1
	資金繰り	27	3.7	74.1	22.2	▲ 18.5	▲ 22.2
	粗利益率	27	7.4	44.5	48.1	▲ 40.7	▲ 33.3
	向こう3カ月の景況	27	18.5	55.6	25.9	▲ 7.4	7.4
前年同期比	売上額	27	25.9	18.5	55.6	▲ 29.7	▲ 44.5
	販売先数・客数	27	18.5	48.2	33.3	▲ 14.8	▲ 22.2
	設備投資額	24	16.7	62.5	20.8	▲ 4.1	▲ 20.8

小売業

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



4～6月期を前期と比べると、売上額、客数、客単価ともプラスに転じ業況感の改善がみられた。仕入価格は引き続きプラスであり値上がりが続いている。販売価格が±0となり価格転嫁の動きは一進一退ではあるが、客単価や客数の改善もあって、採算状況はマイナス幅が縮小している。向こう3カ月の景況はマイナス（悪化超）で推移しているもののマイナス幅が大きく縮小した。

前年同期との比較では、販売先数・客数はプラスが続き、売上額もプラスに転じるなど明るさがみられる。このもとで、設備投資額もプラスに転じ企業マインドの好転がみられる。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	13	30.8	53.8	15.4	15.4	▲ 37.5
	販売先数・客数	13	30.8	46.1	23.1	7.7	▲ 37.5
	客単価	13	30.8	53.8	15.4	15.4	▲ 50.0
	商品仕入価格	13	61.5	38.5	0.0	61.5	62.5
	商品在庫	12	0.0	91.7	8.3	▲ 8.3	±0
	商品販売価格	13	15.4	69.2	15.4	±0	12.5
	採算状況	12	8.3	66.7	25.0	▲ 16.7	▲ 25.0
	資金繰り	13	15.4	69.2	15.4	±0	±0
	粗利益率	13	30.8	46.1	23.1	7.7	±0
	向こう3カ月の景況	13	30.8	30.7	38.5	▲ 7.7	▲ 25.0
前同期 年比	売上額	13	46.2	38.4	15.4	30.8	▲ 12.5
	販売先数・客数	13	30.8	53.8	15.4	15.4	12.5
	設備投資額	12	25.0	58.3	16.7	8.3	▲ 12.5

サービス業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



4～6月期を前期と比べると、売上額、客単価のDIは引き続きマイナス(減少超)であるが、客数はプラス(増加超)に転じ、一部に明るい動きがみられた。しかしながら向こう3カ月の景況はマイナス(悪化超)幅が拡大した。

前年同期との対比では、売上額、設備投資額ともマイナス(減少超)が続いたが、客数は前回調査のマイナスから±0となり改善の動きがみられた。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	32	21.9	53.1	25.0	▲ 3.1	▲ 8.9
	客数	31	22.6	61.3	16.1	6.5	▲ 6.7
	客単価	31	12.9	58.1	29.0	▲ 16.1	▲ 20.0
	採算状況	31	12.9	54.8	32.3	▲ 19.4	▲ 13.6
	資金繰り	31	22.6	64.5	12.9	9.7	▲ 6.6
	粗利益率	31	22.6	45.1	32.3	▲ 9.7	▲ 22.2
	向こう3カ月の景況	31	9.7	64.5	25.8	▲ 16.1	▲ 2.2
前同期 年比	売上額	32	25.0	43.7	31.3	▲ 6.3	▲ 13.4
	客数	32	21.9	56.2	21.9	±0	▲ 4.5
	設備投資額	32	25.0	46.9	28.1	▲ 3.1	▲ 9.7

3. 今春の採用状況について

今回の調査では、今春の採用状況について尋ねた（回答事業所数は290）。回答選択肢（複数回答形式）は「正社員を新卒採用した」、「正社員を中途採用した」、「非正規社員を採用した」、「採用は行っていない」、「当面、採用予定はない」であり、それぞれの回答割合は18.3%、31.7%、19.0%、27.6%、24.5%であった（図7）。

雇用形態を問わず今春に社員を採用した事業所（選択肢「採用した」のいずれかを回答した事業所）は、全体では52.8%と半数を占めた（図8）。業種別では、製造業が53.2%、非製造業が51.9%であり、業種別に大きな差はなかった。従業員規模別にみると、5～19人では36.5%、20～49人では68.0%、50～99人では80.8%、100人以上では90.9%と、事業所の規模が大きくなるほど採用実績のある事業所割合が上昇する結果となった。

このうち正社員を採用した事業所（選択肢「正社員を新卒採用した」あるいは「正社員を中途採用した」を回答した事業所）の割合は、全体では44.1%であった（図9）。業種別では、製造業（46.2%）の方が非製造業（40.4%）より割合がやや高めであった。従業員規模別では、5～19人が29.3%、20～49人が54.7%、50～99人が

図7. 今春の採用について（雇用形態別）

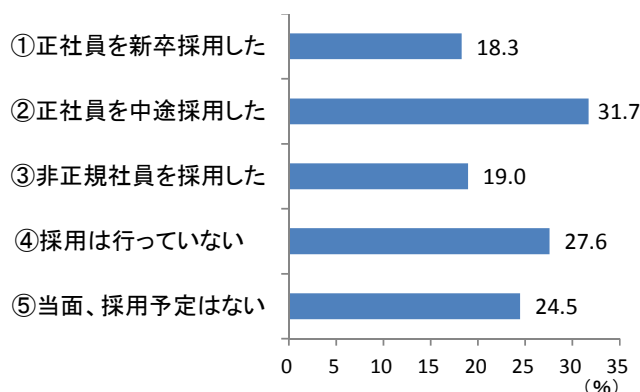
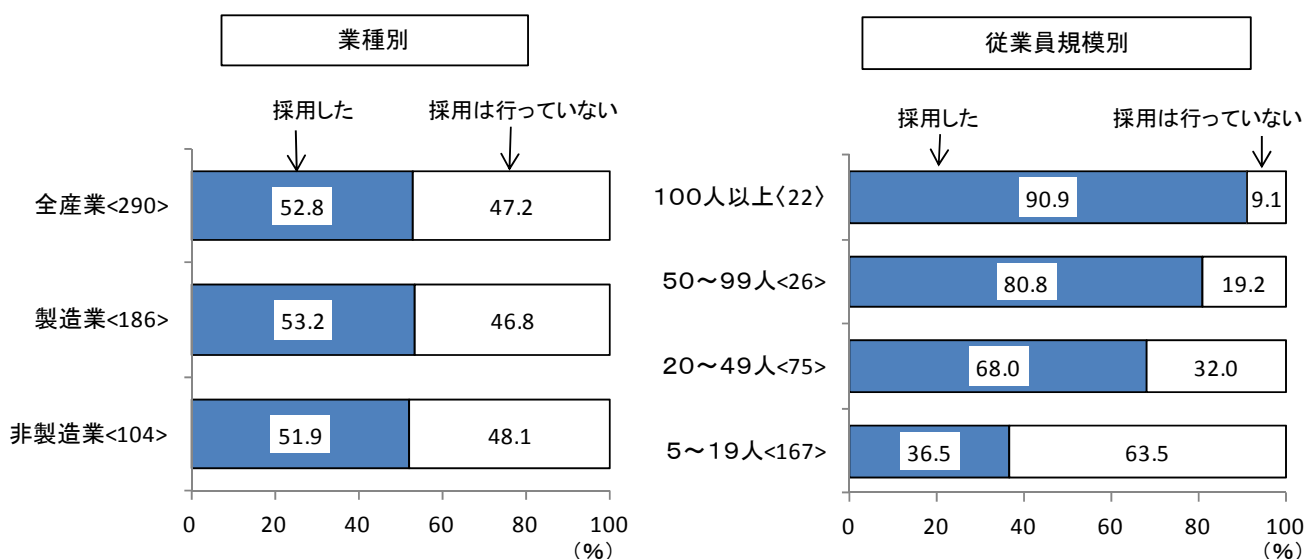
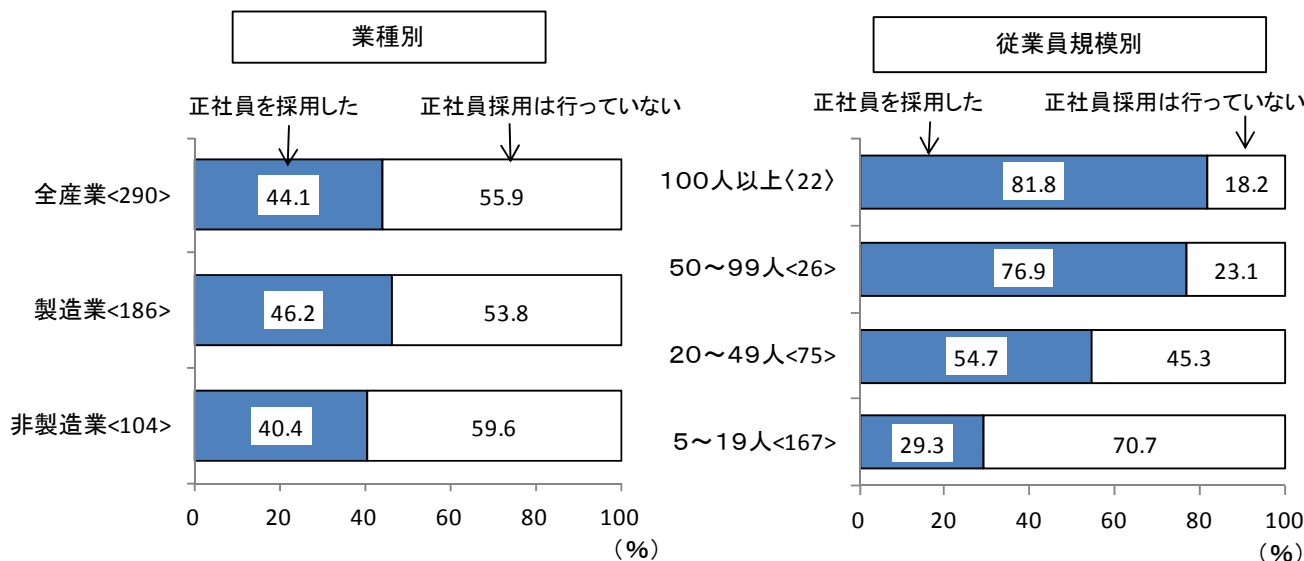


図8. 今春の採用について



（注）<>内は回答事業所数。「採用した」には「①正社員を新卒採用した」、「②正社員を中途採用した」、「③非正規社員を採用した」のうちいずれかを回答した事業所。「採用していない」は「④採用は行っていない」もしくは「⑤当面、採用予定はない」（今春採用実績のある事業所を除く）と回答した事業所。

図9．今春の正社員採用について



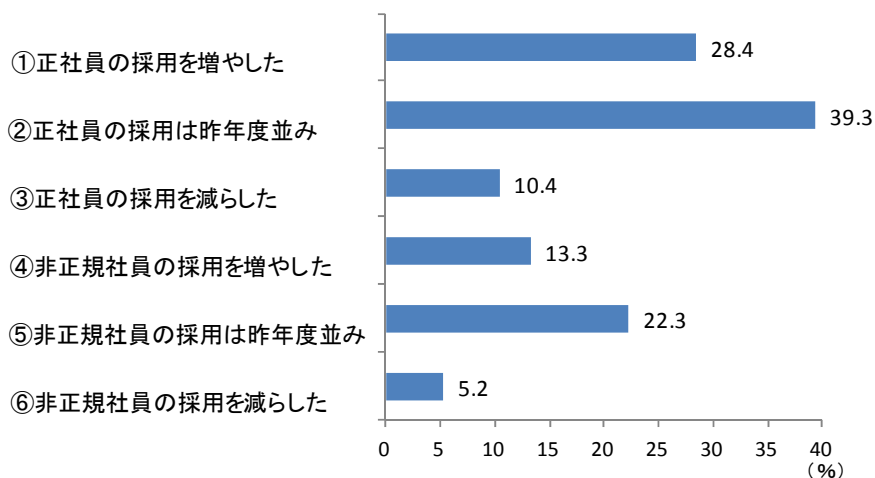
(注)<>内は回答事業所数。「正社員を採用した」は、「①正社員を新卒採用した」あるいは「②正社員を中途採用した」と回答した事業所。「正社員採用は行っていない」には、「④採用は行っていない」もしくは「⑤当面、採用予定はない」と回答した事業所に加えて、「③非正規社員を採用した」とのみ回答した事業所を含む。

76.9%、100人以上が81.8%と、先程と同様に、事業所の規模が大きくなるほど正社員の採用割合が高まる。

次に昨年と比較した今春の採用者数の増減について尋ねた（回答事業所数は211）。回答選択肢（複数回答形式）は、正社員の採用を増やした、正社員の採用は昨年度並み、正社員の採用を減らした、非正規社員の採用を増やした、非正規社員の採用は昨年度並み、非正規社員の採用を減らしたである。それぞれの回答割合は28.4%、39.3%、10.4%、13.3%、22.3%、5.2%であった（図10）⁴。

全体では、雇用形態を問わず採用者数を増やした事業所（選択肢もしくはか、と、との回答）割合は36.0%と4割弱にのぼった（図11）。採用者数が昨年度並みとする事業所（選択肢もしくはか、との回答）割合は49.8%と半数近くを占め、採用者数を減らした事業所（選択肢もしくはか、と、との回答）割合

図10．昨年と比較した今春の採用者数増減（雇用形態別）



⁴ 本調査結果では、「正社員の採用を増やした」が「非正規社員の採用を減らした」、「正社員の採用を減らした」が「非正規社員の採用を増やした」と回答した事業所は無かった。

は14.2%にとどまった。業種別にみると、採用者数を増やした事業所割合は、製造業が35.7%、非製造業が36.6%と、大きな差はなかった。従業員規模別では、5～19人の事業所において採用を減らした事業所割合がやや大きい。

正社員の採用増減に限定して集計すると（回答事業所数は165）、全体の36.4%の事業所が採用を増やした一方、減らした事業所は13.3%にすぎなかった（図12）。業種別には、増やした事業所割合は製造業が37.0%、非製造業が35.1%と大きな差はなかった。一方、従業員規模別には、増加事業所割合が、100人以上は28.6%と全体平均を下回るのに対して、50～99人は45.0%、5～19人は38.2%と、規模の小さい事業所の正社員確保の動きがやや強めに現れた。

図11. 昨年と比較した今春の採用者数増減

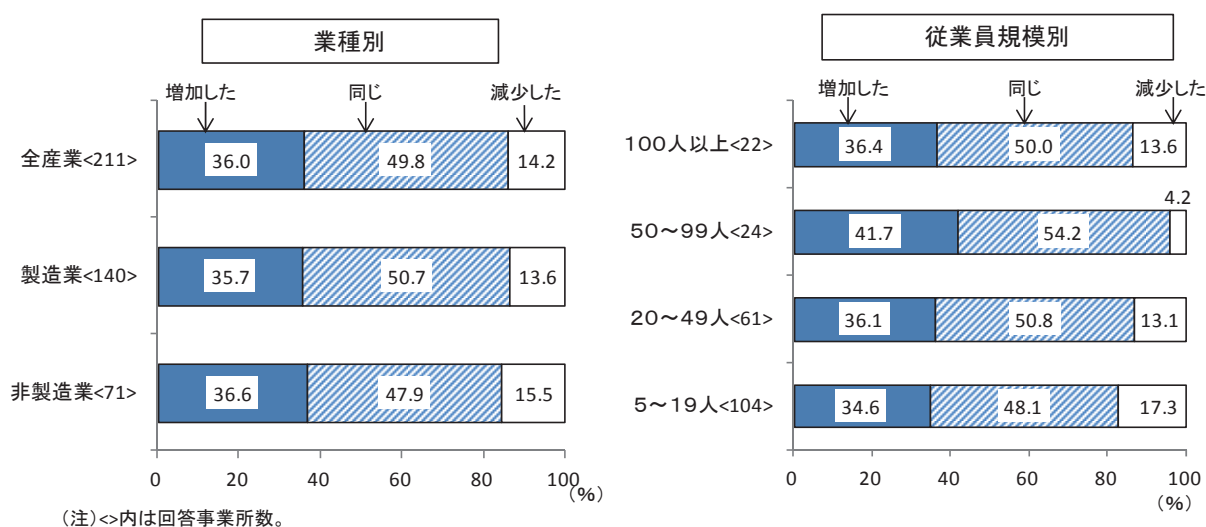
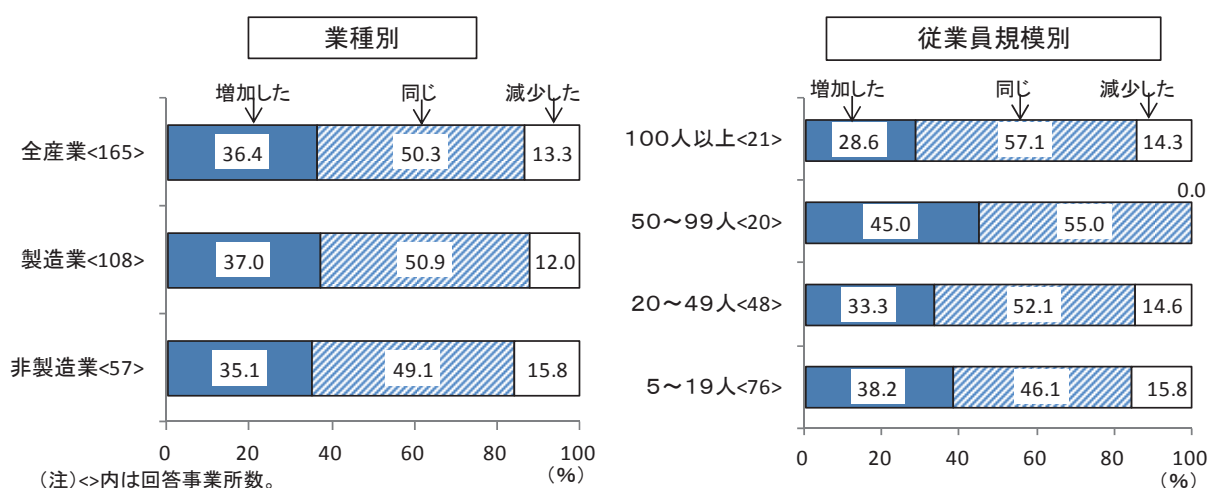


図12. 昨年と比較した今春の正社員採用者数増減



4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	社員、非正規社員を増やす程、忙しくなっていないのが現状。
製造業	A	募集してもなかなか人が集まりません。
製造業	B	一時的に受注が増加しているが、全体を見るとまだまだ悪い方だと思う。
製造業	B	定期的に採用するのではなく、欠員募集が弊社では多い。
製造業	A	現在、弊社取引先（自動車関係下請）の景気が低迷している関係で、主力商品である金属加工油の出荷量が減少している。社員の採用には、製造業の景気回復が絶対条件である。
製造業	A	来期に新卒雇用（高卒）を初めてしようと思っています。
製造業	C	年齢に関係なく定着率が悪い。製造業としては、若い人の採用を進めたいが、礼儀もなく欠勤が続く方や、連絡なしに辞める派遣もいる中、現状の人数で耐えていくしかない感じもある。
製造業	B	大手企業の景気が良くなってくると、中小零細にシワ寄せがくる。
製造業	A	2014 年 11 月に破産した会社のプレス職人を採用しました。積極的に将来の会社の人材を考えても、今の社会状況の中で、希望して来てくれる若い人材はいないと思いますし、来てくれても定着してくれるかどうかは否定的で、変な希望はもたない方がいいように思います。
製造業	A	仕入先・得意先を含め全く活気がない様子で先行き不安。新製品も正式受注にはなっていない。テスト出荷のみ。
製造業	C	大手が多く採用しだしたので、大変である。
製造業	A	円安で海外製品も高くなり、新規では採用できない。
製造業	A	器用で性格の良い子がいればいつでも採用したい。
製造業	A	60 歳以上が半数に増え、この秋口から若手の募集をしたい。仕事量は順調です。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	景気不況です。
製造業	B	この頃の大卒は挨拶もろくに出来ない。困っています。
製造業	A	荷動きは1～3月に比べて横ばいか、むしろ低下している実感です。
製造業	A	正社員の募集をしても、人材がいない。
製造業	A	採用については、現在行っておりません。理由は、製品粗利益が少なく、現社員へのベースアップもできておりません。順番に改善し、製品出荷量が多くなる努力をしております。
製造業	A	正社員採用の予定（1～2名）
製造業	A	人手不足感が高まっている。
製造業	A	資格者（技能、管理）に対しては給与UPしたいが、私共の会社規模では高額手当が出せないなので人材が集まらない。
製造業	A	8月頃より受注増を予定している。今は、環境整備に注力。
製造業	A	受注量が3分の1になり、新製品が出てこない。
製造業	D	一般社員採用の場合（生産・事務営業）勤務が安定しない為、職種及び管理者においては有償媒体を活用せざるを得ない。その他の製造業（加工）の為、なかなか有能社員の採用は困難である。
製造業	A	お金持ちと大企業だけが景気が良くなっているようで、マスコミも正確に伝えられていないと感じています。
卸・小売業	B	為替相場の安定がなければ、利益確保の計算が読めない。
卸・小売業	A	人の問題は急務。
卸・小売業	B	社員の採用をしたいが応募なし。
卸・小売業	B	パート採用を積極的に行っているが、思うように集まらない。

業種	規模	コメント内容
卸・小売業	B	応募者が少ない。大企業の求人条件が良すぎる。
卸・小売業	A	八尾で景気が良いという話は聞きません。どこが景気がいいのか。いつまで続くのか。
サービス業	B	ドライバーさんがいない。
サービス業	A	ハローワークに申し込みをするが人がこない。
サービス業	A	今後の日本経済が持ち直すことを期待し、弊社は会社の繁栄と社員の幸福を目指します。
サービス業	B	募集しても、応募が少ない。
建設業	C	学生の減少に加え、大企業が大多数採用してしまうので、中小企業には余地がない。
建設業	A	採用予定なし。
建設業	A	忙しい時と忙しくない時の差が大きくて採用を控えたいが、いい人材なら今のうちに採用したいと思う。
建設業	A	正社員を新卒採用したが、4月30日に退職した。
建設業	A	採用は、景気が安定するまでは無理であろう。
建設業	A	若手高卒もいない、又入社してもすぐ辞める、若い人はどういうところへ働きに行くのか。大事にしているつもりですがわからない。
建設業	A	大企業の好決算を横目に見ながら、我々市場の環境の変化は悪化するばかり。請負単価は一向に上がらず材料工賃は上向き、経営者は身が細るばかり。

規模

A = 5 ~ 19 人、B = 20 ~ 49 人、C = 50 ~ 99 人、D = 100 ~ 299 人、E = 300 人以上

コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合があります。また、調査を実施した 2015 年 6 月時点での表現となっています。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>



八尾市 経済環境部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>